

## 富山県総合計画審議会 第1回総合部会

日 時：平成29年2月8日（水）9:45～11:45

場 所：県民会館8階バンケットホール

### <出席委員>（五十音順）

遠藤部会長、稲垣副部会長、高木活力部会長、金岡未来部会長、尾畑安心副部会長、石塚委員、板倉委員、岩田委員、碓井委員、尾谷委員、久和委員、永原委員、朝日専門委員、池田専門委員、今村専門委員、菅野専門委員

### 1 開会

【司会】 ただいまから、富山県総合計画審議会の総合部会を開催いたします。

### 2 知事挨拶

【司会】 まず初めに、石井知事からご挨拶申し上げます。

【石井知事】 おはようございます。

本日、県の総合計画審議会の第1回目の総合部会を開催しましたところ、委員の皆様には、大変お忙しいところご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

富山県では、ご案内のとおり、平成24年の4月に県政運営の指針となる現在の長期計画「新・元気とやま創造計画」を策定いたしており、これまで活力、未来、安心の3つの分野と重要政策「人づくり」の分野でさまざまな事業を進めてまいりました。

一方で、計画策定から5年近く経過いたしまして、もともと10年計画ですので、中間年次で見直しをしようということにはしていたんですけれども、特に新幹線が開業して早くも2年近くたち、観光の面とかあるいは企業立地の面、大型商業施設の進出の面、また県民の皆様の生活の面でも首都圏との関係が大変に密接になりますなど、すっかり富山県は新しい時代に入ったなというふうに実感をいたしております。

また、他方で日本の地方どこでもそうですけれども、人口減少ということが深刻化いたしておりますので、地方の人口減少対策を含む地方の活性化ということを目標としており、地方創生戦略ということで国の重要政策の一つにさせていただいております。

この新幹線開業と、政府の地方創生戦略をうまく最大限に生かして富山県の新しい時代を創造していく、そういうことでありまして、そのためにもぜひ新たな総合計画をつくるということにさせていただきたいと、このように思っております。

昨年12月8日に1回目の総合計画審議会を開催いたしました。これに4つの部会、活力、未来、安心、また全体を相互調整していただいたり、また、行財政改革とか人づくりとか、また、県内富山地区、新川地区、県西部、こういった地域別の特性や取組みに関する指針といったようなこと、総合計画で言えば骨格に当たるところをこの総合部会でご審議いただきたいということでございます。

今日の第1回の総合部会、計画策定にかかわる幾つかの論点などを中心にご検討をいた

だいて、総合部会には、とりわけご見識の高い皆さんにご参加いただいておりますので、忌憚のないご意見、またご提案をいろいろいただければありがたいと思っております。どうかひとつよろしく申し上げます。

【司会】 この富山県総合計画審議会総合部会につきましては、昨年12月8日に開催いたしました第1回の総合計画審議会において、富山県総合計画審議会運営規程に基づきまして、会長の指名で部会長を遠藤委員、副部会長を稲垣委員をお願いすることで決定をいたしております。よろしくお願いたします。

次に、資料1の部会別委員名簿をごらんいただきたいというふうに思います。

総合部会については、この名簿にありますとおり委員12名、専門委員5名の方々に委嘱申し上げております。さらに、活力、未来、安心の3部会長または代理として副部会長にご参加いただくこととなっております。計20名で構成しております。本日はこのうち委員12名、専門委員4名の方にご出席いただいております。

本来、お一人ずつご紹介申し上げるべきところでございますけれども、お手元の名簿をもちましてご紹介にかえさせていただきますと思っております。

また、専門委員の皆様には、本日お手元に知事名の委嘱状を配付いたしておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、早速議事に入りたいと思っておりますけれども、運営規程第4条によりまして、部会長に議長をお願いすることとなっております。遠藤部会長に議長をお願いしたいと存じます。

### 3 部会長挨拶

【司会】 それでは、部会長からご挨拶をいただきまして、引き続き議事に入っていただきたいと思っております。

部会長、よろしく申し上げます。

【遠藤部会長】 部会長を務めさせていただきます遠藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。

知事もお話しになられたとおりで、まさに新しい時代、そして、平時では混沌の時代がありますけど、だからこそ将来を目指して新しい気持ちで総合計画の策定を進めていきたいと存じます。

きょうは総合部会ということで会議を開いたわけですがけれども、総合計画も、その他の部会の基本方針など全体を加味しながら議論をしなければいけないというふうに理解しておりますので、どうぞ皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、お力添えのほどよろしくお願いたします。

### 4 議事

#### (1) 各部会、青年委員会の主な意見

【遠藤部会長】 では、議事に入らせていただきます。

お手元の会議次第に従いまして、まず議事(1)各部会、青年委員会の主な意見について

て、各部部长、副部长等よりご説明をいただいた後、事務局からの総合計画の見直しについてご説明いただきますが、高木部部长が遅れてこられますので、高木部部长のお話を後半に回させていただきます、最初、金岡部部长から未来部会についてのご報告をお願いしたいと思います。

【金岡未来部部长】 おはようございます。未来部会の部部长を仰せつかっております経営者協会の金岡でございます。

未来部会でございますが、去る1月25日に審議会の委員の皆様10名、専門委員会の皆様8名、計18名出席のもと開催させていただきました。

なお、富山県のほうからは、石井知事はじめ多くの関係部局の皆様にご参加をいただいております。

この委員名簿を見ていただきますとおわかりになると思いますが、女性活躍の時代を活かして委員の過半の方が女性であるという部会でございます、1月25日の部会の際も半数の方が女性の委員の皆様にご参加をいただきました。

2時間の予定で、最初は少しかたい雰囲気もありましたが、皆様ご専門を活かされて、さまざまな知見を、こういった方々の集合体でございますのでさまざまな意見を聞かせていただいて、時間が足りなくなるような場面もございました。

お手元の資料に主な意見が書いてございますけれども、幾つかご紹介したいと思います。

まず、未来部会のミッションは4つに分かれていまして「結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり」、2番目が「真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」、3番目が「文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進」、4番目が「ふるさとの魅力を活かした地域づくり」と、この4テーマでございます。

本当にさまざまなご意見をいただきまして、例えば結婚・出産・子育てで言いますと、やはり人口が全ての基本であり、他府県では非常に大胆な財政手当をされているところがあるので、そういうふうなこともお考えになられてはいかがか。あるいは子育て、特に富山県の場合は男性が子育てに参加するというマインドがなかなか醸成されていないということで、このマインドチェンジを促していくようなことが大切である、というご意見もございました。

あるいは学校教育と家庭・地域の教育力の向上で申しますと、この計画全体に学校教育にウエートが行き過ぎているのではないかということで、家庭における教育力の向上あるいはその連携というものも見直す必要があるだろうと。

さらには、もう既に進めていただいております「社会に学ぶ14歳の挑戦」は非常に素晴らしい取り組みですので、これをぜひ続けていただきたいというご意見もございました。

文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進では、もう既に金メダリストも出ておりますので、競技力向上の取り組みの成果が確実に出てきていると。今度の東京オリンピックも控え、この形を推進していかなきゃいけない。

さらには文化面で言いますと、本年オープン予定の富山県美術館に大きな期待を抱いておりますというご意見もいただきました。

ふるさとの魅力を活かした地域づくりの中では、もう既に数多くの施策がメニュー化されておりますので、これでもう十分ですと。あとは、それを具体的にどのように実施していくか、その運用の仕方についてさらに詰めていただきたいというようなご意見をいただ

きました。

総じて私の感想でございますが、県の総合計画、さらには見直し案について、これに對峙するような反対の意見は全くございませんで、むしろ着実に成果を上げていただいている現状に鑑み、さらにこの施策を、この未来部会の各委員の皆さん方の意見も取り入れていただいで充実をしていただけないか。こういう形の結論、これが第1回目の未来部会の内容であったのではないかと思います。

私からのご報告は以上でございます。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

では、続きまして安心部会のほうで、尾畑副部会長からお願いいたします。

【尾畑安心副部会長】 おはようございます。

今日は、本来でありましたら岩城部会長のほうからご報告をいただく予定でございましたけれども、あいにくご都合が悪いということで、私の方から代理でご報告させていただきます。

資料7ページをお開きください。

出席されました委員は審議会委員が12名と専門委員10名の合計22名でございました。

安心部会と申しますのは、4つの柱がございましたけれども、主として、いのちを守る医療あるいは健康というところで大変多くの意見が出されておりました。お医者さん、それから薬剤師、歯科といった医療関係の方、そして看護師の方とか介護の方、あるいは栄養士の方、そういった非常に多岐にわたる関係の方から多くの意見をいただいたわけでございます。

とりわけ10年後に関するお医者さんの数というよりも、質といたしましうか、診療部門の偏在ですとか、あるいは地域による偏在、こういったことが今もかなり深刻だそうなのですが、今後ますますそのようなことが心配されるというご意見がございました。また、若手の方とかあるいは女性がもっと活躍できる環境の整備が必要じゃないか。これが担い手の確保に向けたご意見でございます。

それから、健康維持という視点から言いますと、看護師さん、栄養士さん、あるいは保健師さん、そういった方々と連携、コミュニケーションをとっていく、そういう仕掛けをもっと充実していく必要がある。今度、県立大学の看護学部もできますので、そういう意味では大変期待ができるというご意見がございました。

それから2番目の柱であります「住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の推進」ということで、これも高齢化社会が深まる中で、いろんな地域活動をなさっている方のご意見でしたけれども、ケアネット活動というのが大変進んでいるんだけど、実際には個人情報の部分というのが少し壁になっていくと。この個人情報と支援しなければならない人たちとの間をうまくつなぐような、例えば社会福祉士の方とかの活動がこれからも重要になるんじゃないか、というご意見が出ておりました。

また、先般、福祉分野の試験を受ける人が大変減っているということが出ておりましたけれども、少しソフト面での福祉教育というのが必要なんじゃないかという意見も出ておりました。さらにそういった福祉の部分をつらぬいていろんな資格を通してさまざまな仕組みを充実させていくという点から人材確保の指摘がありました。

それから3番目の「環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県」づくり」と

いうことで、ここでは、1つは富山の自然と観光客といった関係の中で、もっと自然を体験していただくような参加型の観光が今後必要じゃないかといったようなご意見が出ておりました。

それから循環型という意味では、1つは、なかなか廃棄物の再生率が高まらない中で、まずは発生抑制といったことにもっと目を向けていく必要があるんじゃないかというご意見が出ておりました。

4番目の柱の災害等に関することをございます。

富山県は安全・安心な県だというふうに言われておりましたけれども、昨今さまざまな自然災害あるいは特殊詐欺のような犯罪ですとか、あるいはいろんな意味での災害が増加しておりまして、そういう面での対策、例えば監視カメラの設置あるいは地域での取組みがもっと今後必要になっていくというようなご意見が出ておりました。

また、交通難民の出現に対応すべき、地域交通をもう少し充実していかないといけないという意見が出ておりました。

安心分野は、医療から最後は災害まで大変幅広い分野にわたっておりまして、ご意見をただただで時間が過ぎまして、取りまとめとかそういったことは特にございませんでしたけれども、この4つの柱についてしっかり充実していくようにというようなご意見だったと思います。

最後に私のほうから、消費者協会という立場も踏まえ、何かをやってもらうことだけを考えるのではなくて、やっぱり一人一人が自立するため、学校教育だけじゃなくて、それぞれの場における自立のための教育が必要であろうと、思っております。ちょっと長くなりましたけれども、ご報告にかえさせていただきたいと存じます。

以上でございます。

**【遠藤部会長】** ありがとうございます。

それでは、高木部会長がお着きでございませぬので、青年委員会のことも含めまして、事務局のほうから総合計画の見直しのところについてご説明をお願いします。

**【事務局】** それでは、青年委員会のご報告をさせていただきます。

9ページをごらんいただきたいと思ひます。

1月19日に各部会に先立ちまして、各分野でご活躍の30代の方々を中心に21名の方に委員にご就任をいただきまして、20名の方にご出席をいただいております。

お手元の名簿で申しますと4ページ目でございますけれども、青年委員会の委員の名簿を添付させていただきます。

委員長には、県の商工会議所連合会の青年部連合会会長の森井信次さんにご就任をいただいております。

第1回目ということでございましたので、まずは職場などを通じて日ごろ感じておられる県に対するご意見などを中心にご発言をいただきました。

少しご紹介いたしますと、例えば活力分野でございますけれども、上から2つ目ですけれども、産業観光などを生かして後継者不足の解消につなげられないかですとか、上から5つ目でございますが、民泊が国で議論されているけれども、県としてもしっかり対応してほしい。

それから活力の一番最後ですけれども、アミロース米などにも挑戦してはどうかなどの

ご意見をいただいております。

未来分野につきましては、例えば上から3つ目でございますけれども、ふるさと学習のためにもどんどん立山登山を取り入れてはどうかというご意見ですとか、また下から2つ目でございますが、これは審議会でも提案があったが、全天候型の文化・スポーツ施設について、地域活性化の点から重要ではないかというご意見。

それから次のページでございますが、上から3つ目でございますけれども、語学教育だけでなく、多様性を受け入れていくグローバル教育というものも進めてほしいというご意見。

それから安心分野では、上から3つ目でございますけれども、在宅医療へのシフトが重要であろうということですか、下から2つ目、コミュニティバスなどの地域交通の利便性などに対するご意見をいただいております。

人づくりについては、1つ目でございますけれども、自己肯定感を上げる教育が重要ではないかということですか、下から4つ目でございますけれども、若者・働き盛りの文化・スポーツに触れる機会を増やすことが大事ではないかというご意見。

それから下から2つ目ですけれども、次世代法と同様に、女性活躍推進法の行動計画についても県条例で策定義務を上乗せしてはどうかなど活発にご意見をいただいております。青年委員会の報告は以上でございます。

## (2) 総合計画の見直しについて

【事務局】 それでは、引き続きまして、資料の説明に入らせていただきます。

資料のほうは11ページをごらんいただきたいと思っております。

総合計画の見直しについてでございますけれども、この資料は昨年12月8日の審議会での資料でございますけれども、本日からご参加の専門委員の皆様方には、ごらんの策定趣旨につきましてお目通し、ご確認をいただければと思っております。

下のほうに記載しておりますが、新たな計画につきましては、平成38年度を目標年次といたしまして、概ね10年間程度を見通した計画として策定していこうというものでございます。

スケジュールにつきましては次のページでございます。

今年は秋まで、今回も含めまして都合3回の総合部会を開催させていただきまして、年内に審議会から答申をいただくという予定にしております。

詳細スケジュールは13ページにまとめておりますのでご確認をいただければと思っております。

続きまして14ページ、資料4-1、A3縦長の資料でございますけれども、新たな総合計画と現行計画との比較表（たたき台）ということでございますが、左側が現行計画の構成でございます。右側が新計画の構成案でございますけれども、概ね現行計画の構成を踏襲いたしまして、今後骨子案を作成してまいりたいと考えております。

大きくは総論編、基本計画編、長期ビジョン編の3編構成となっております。

本日の部会では、特に下のほうですけれども、第2編の基本計画のうち重点戦略、人づくり、地域別の特性と取組みの3つを中心にご意見をいただきたいと思っております。

あと、総論編でありますけれども、参考論点として上のほうに時代潮流、富山県の状況

変化についての資料を添付させていただいております。

続きまして15ページをごらんいただきたいと思います。

資料4-2の論点1. 重点戦略についてという資料でございますけれども、重点戦略については上のほうに記載しておりますけれども、個別の「活力」「未来」「安心」の政策を横断的、また有機的に組み合わせまして1つのテーマを設定して、めりはりを持たせて計画全体を進めていこうというものでございますけれども、今後10年を見据えて、どのような戦略性のあるテーマを設定していけばよいか、ご意見をいただければと思っております。

ちなみに平成24年度策定の現行の計画では、ごらんの5つの重点戦略を設定しております、16ページから25ページにかけて、それぞれの戦略の狙い、またこれまでの取組みの実績などをまとめておりますので、議論の参考にしていただければと思っております。

続きまして、飛んでいただきまして26ページでございますけれども、資料4-3、論点2. についてでございます。

こちらは第1回の審議会において100の新たな政策を提示させていただいておりますけれども、そのうちの人づくりに関する政策についてでございますけれども、新たな政策体系といたしまして、ごらんの5つのテーマを盛り込んでおります。

27ページをごらんいただきたいと思いますけれども、それぞれのライフステージ、成長段階に応じまして、切れ目なく人づくりを進めていこうというものでございます。

特に左側のテーマ3の女性の活躍とチャレンジへの支援につきましては、今回新たに独立をしてテーマ設定をしているものでございます。

28ページ、A3横長の資料でございますけれども、下の表でございますが、左側が現行計画の12のこれまでの人づくりの政策ですけれども、これを今回右側の15の政策ということとしております。

上の5つの囲みは、テーマごとの主な取組みのポイントをとりまとめさせていただいております。

29ページ、30ページにつきましては、それぞれ15の政策ごとの取組みの方向をまとめております。

31ページから45ページまでは、15の各政策の現状と課題、論点などをまとめておりますので、これらの政策の取組みについてご意見をいただければと思っております。

46ページをごらんいただきたいと思いますけれども、資料4-4、論点3. 地域別の特性と取組みについてでございます。

こちらは県が取り組んでおります活力、未来、安心の各施策を地域ごとに整理をいたしまして、取組みの方向として地域ごとに提示しているものでございますけれども、現行計画では別添の47ページから56ページまで、添付しているような内容となっております。

今回の計画策定に当たっては、総合部会のもとに県内3つのブロック、新川、富山、県西部で地域委員会を新たに設けるということで、さきのこの審議会でご議論いただいておりますけれども、各地域、各市町村などと連携を図る上で、県の役割として特にどのような取組みが必要か、下の囲みの課題例なども参考にしていただきましてご意見をいただければと思っております。

なお、この※に書いておりますけれども、前回、4ブロックということで砺波地域を区分しておりましたが、今回から3ブロックということになりますけれども、分野によりま

しては砺波地域も区分して考えるケースもあろうかと思われまますので、その点につきましては柔軟に対応することとしております。

57ページでございますけれども、こちらは各市町村長の皆様方に新しい総合計画に対するアンケートを行いましてご回答をいただいておりますので、ご参考にしていただければと思っております。

最後、一番終わりの59ページでございますが、その他の論点といたしまして、先ほどの総論編の時代潮流、富山県における状況変化について、骨子案に盛り込む現時点の方向の例示ということで記載させていただいておりますので、合わせてお目通しをいただければと思います。

事務局からは以上でございます。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

では、高木部会長がご到着でございますので、活力部会についてのご報告をお願いします。

【高木活力部会長】 それでは早速でございますが、活力部会の現状についてご報告を申し上げます。

1月24日に第1回の活力部会を開催いたしまして、審議会委員11名、専門委員12名の23名にご出席いただきました。

主な意見といたしましては、第4次産業革命への対応は、いかに中小企業に普及させるかが肝心になり、先端技術の導入を産学官金挙げて支援する仕組みが必要ではないか。

それから、商業の活性化、まちのにぎわい創出がやはり大きな課題であり、定住人口増加の面からも、あるいはUターンの面からも、企業誘致、学生確保とあわせて必要なのではないかというご意見がありました。

それから、農業の後継者育成が課題であり、意欲ある若者の研修への参加など自立を促す取組みへの支援が必要ではないかというご意見もございました。

また、農林水産物の輸出に当たっては、品質の向上と差別化が重要だろうと。

それからインフラ面では、富山県は新幹線をはじめ全ての市町村に鉄軌道がありますけれども、こうした二次交通との待ち時間も含めて、連絡をどうスムーズにしていくかという視点が必要なのではないかということでございました。

特に長期滞在型の産業観光などを考えた場合に、こうしたことがより重要だということでございました。

それから、観光資源でございますが、よく言われることですが、やはり発信をどうやって充実していくかということが一番中長期的には重要ではないかと。県内には既に世界遺産になった加賀藩のお祭りが3つもユネスコに指定されるなどあるわけですが、全国的に見れば、あれは全部金沢という誤認識もありますので、あれは越中にあるということはどうやってきちんとPRしていくかということが必要なんだろうというようなご意見がございました。

いずれにいたしましても、世界やアジアの中の日本、そしてその中の富山県という非常にいいポジションにありますので、これを具体的に更に取り組んでいく必要があるだろうというのがご意見でございます。

以上でございます。



【遠藤部会長】 ありがとうございます。

### (3) 意見交換

【遠藤部会長】 以上で各部会からのご報告並びに総合計画の見直しについて事務局からのご説明をいただきました。

先ほど知事のご説明になりました現行計画のほう、富山県の総合計画ができておりますが、今回、新しい総合計画をつくるので、もしこの新しい総合計画が出ると、前の10年計画はこれを扱う上で入れかわりになるという意味ですか。

【石井知事】 そうですね。

【遠藤部会長】 なるほどそうしますと、この新たな総合計画で皆様が、各部会は基本政策の活力、未来、安心のところを担当していただいているということでご致しますし、政策に関しましては、小さなほうの政策の欄に番号が書かれているものがあって、これが基本政策の中にある。あるいは重点戦略に関しましては、このような形でそれぞれターゲットを決めながら、各部会の視点からいろんな総合的な面から重点戦略を決める。そしてこれを組み立てていただいて、こういうふうにまとめていくという視点でよろしいでしょうか。

【石井知事】 はい。

【遠藤部会長】 それで、新たな総合計画をつくっていく過程の中で、今まで、「とやま未来創生戦略」、そして「富山県経済・文化長期ビジョン」というものを別途つくっておきまして、これらを取り込みながら、この総合計画が改めてまとめられるという視点だというふうに理解しています。そういうことで間違っていないですよ。

【石井知事】 はい。よろしく申し上げます。

【遠藤部会長】 資料をまとめていただいた事務局のご努力は大変だったと思います。各委員の皆様、今日は全体を見ていただいて、ご意見をここで聞かせていただき、よりよいものをつくらせていただきます。ここで皆様方からご意見を1人ずついただきたいと存じます。

各委員の方、それから専門委員の方、部会長、副部会長の順で、最後に永原審議会会長からご発言をいただきたいと思えます。

それでは、初めに石塚委員からお願いいたします。

【石塚委員】 石塚です。私が直接関係するのは34ページにありますけど、人材の育成ということで、今県立大も拡充を図っておりますが、そういう意味で、世の中に役立つ人材育成をこれからもしっかりとやっていくつもりでございます。

私の個人的な考えですが、きょうの青年委員会の報告にもございましたが、10ページ、交通のこと、富山は私も来て17年になりますけど住みよい県だと思っているんですが、車が運転できるうちはいいですよ。要するに関東から来られて、私も初めて来たときに、びっくりしたんですが、富山の方って、バスでも電車でも30分に1本とか1時間に1本に慣れていらっしゃるんですが、関東から来ると大変なきつい仕事でごございまして、そうとは言ってもコストもかかるのでそれはちょっとなかなか難しいと思います。例えば観光客が来てそういう現状を見ると、観光に来るのはいいんだけど、将来富山に入ってこようと

いう気になるかといったらちょっとどうかと思っています。例えば電車はあれだけでもタクシーがうまく使えるとか、何か考えて動かしてもらおうと、また一つ魅力としてつながるのではないかというふうに思っています。

私は今、車通勤をやめて市電、電車、そして駅から健康のために歩いていますから、非常に健康的な生活を送っておりますが、これがもう少し年を取ったらできるかというのがちょっと不安なところがございます。

以上でございます。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

でも、石塚委員さん、次の時代はもうオート自動車で車が連れて行ってくれる時代が来るのではないかと思います。

では、板倉委員、どうぞ。

【板倉委員】 最近、さまざまな生涯スポーツが行われています。それが健康寿命といったことにつながっていくんでしょうけども、例えばこういうスポーツをしたためにどれぐらいその地域で医療費が削減になったとか、そういう具体的な数字を出していくとか、そういったことができないだろうかというのがあります。

それと医療で言いますと、先ほども安全という表記もありましたけれども、今病気になって、例えば中央病院に入院して、ずっと中央病院にいられるかということそうじゃない。ある程度治療が終わると、終わるといのは治ったわけではないんだと思うんですけども、転院しなければいけない、そうしたときに、地域連携といいますか、住んでいる地域で受け入れていただけるような病院はどういったところがあるんだとかということをちゃんとお世話していただける、そういうシステムができていますけども、一層細かな心配りといいますか、そういったものが充実していかなければ、どんどん高齢者が多くなる中ですごく大変なんじゃないだろうかというふうに思います。

手前味噌でございますけども、北日本新聞が県内の販売店と一緒に随分前から「愛のひと声運動」という運動を続けております。それは、配達さんが地域の安全を見守るというんでしょうか、配達の仕事をしているときに、新聞受けに3日、4日新聞がたまっていたりすると、地域の人と、あるいは役所なんかと連絡してお家を見ていただいて倒れている人が発見された、あるいは徘徊している人を見つけて保護したとかというケースがあり、販売店の方に感謝状を渡しているのですが、これまでに82件ありました。

そういったものはやっぱり、これからの地域のさまざまなところと連携をして、手厚いシステム的なものもできてくればいいのではないかなと思っております。

そのほか、教育のことですが、別の審議会だったと思うんですけども、外国語の修得が必要だという話が出たときに、日本語をきちんと身につけることの方が先だとおっしゃる方もありましたけどもやはり英語などの外国語をさらに特区みたいな県全体で盛り上げていくような仕組みになればいいと前々から思っていました。

それと、各地域がさまざまなことで競争するのはいいんですけども、1つの地域であらゆるものをカバーできるという世の中ではないし、またそうあってはならないのではないかなというふうに思っています。

そういう意味では、共生といいますか、お互いに足りないものを認め合いながら、こういうことをしたければこの地域ならあると、そういう仕組みづくりといいますか、つく

っていただければいいなと思います。また、それぞれの地域が、いいものがあるかということも強力的にアピールする、そういう仕方もあるんじゃないかなというふうに思います。

私、黒部に住んでいるのでいうわけではないですけど、車のナンバーにご当地ナンバーというのがあるんですが、僕は黒部ナンバーというのができたらいいなというふうに思っております、これはやっぱりアピールできるだろうと。いろんな条件があるんだと思うんですが、それくらいのそれぞれの自分の地域のアピールを元氣よくやっていただきたいなと思います。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

岩田委員、お願いします。

【岩田委員】 各部会からご報告を受けましたが、私たちの団体として関係のあることで、まずは安心部会の環境のほうについて少し意見を述べさせてもらいたいと思います。

先ほど尾畑委員のほうからも、県として大きな取組みを検討してほしいというお話がありました、やはり環境は一人一人の自立であると思っております。

私たちの会では、昨年度、食品ロスのことでもG7の後でやろうということで福井県に行ってきました。そしてこの1月には松本市に行っていました。

そこで共通して思ったことは、両方の県は、県が主導になって、こういうことをやろうということを出発されて住民におおしていつている。福井県の場合は婦人会のほうにこの部分をやってもらえないかということで、保育園などに出かけて活動しているということ。

それから松本市においては、庁内で各課がそれぞれやれることはないかということで決定して今活動を進めている。全国からたくさん活動を聞きにこられるのではないかと心配しておりましたが、快く受けていただいて、私たち十数名が行ったわけですけど、こういう婦人団体が関心を持って来ていただいたことにびっくりしましたという発言をいただきました。

私たちはレジ袋の成功例もありますので、やっぱり行政から言われてやるのではなくて、まず私たちのほうから活動を起こしてやらなければならない、そういう思いでおります。

これからも、困ったときはやはり行政にお願い、助けていただくこともあると思いますけど、レジ袋のように、各女性団体がたくさんございますが、それぞれの団体がすき間を埋めるような活動を続けていければと、そして成功例にならってやっていきたいなというふうに感じております。

ただ、前に名古屋の大学から先生がお越しになって、レジ袋の活動の経過とか、今どんなふうにしていらっしゃるか聞きたいということでお見えになったんですけど、私たち富山県は95%持参率をずっと維持しておりますけど、やはりこれに甘えているのではだめだなというふうに自分自身、今反省をしております。

他府県では、大体初めは持参率はよくなるんですけど、だんだん下がっていくと、そういうこともあるので、富山県は今ここでもう一度感謝の気持ちを込めて、そしてまた新しい取組みについて検討して、皆さんと共有していきたいなと思っております。

それから人づくりのほうで、資料の中にもちょっとありますけど、昨日も全地婦連常任理事会で富山県ばかりでなく各県同じような状態で会員の減少が早く進んでおります。私もいろんな会に出ますと、富山県は老人クラブの加入率が全国1位だということで、とて

も島田会長は自慢にしていっちゃって、私もそれは高齢者の健康づくりとかにとってもいいことだと思うんですけど、65歳以上の行動者率が、大体趣味とか娯楽のほうで70%ぐらいで、我々と同じような学習とか自己啓発の部分が15%から20%ぐらいのようで、そこら辺が婦人会が占めているのかな、それでだんだんその会員が減ってきて、趣味とか娯楽のほうに会員が移っていくという、全国的に同じだなと思っております。これをどう歯止めをかけるのか、もうほとんど打つ手が無いというのが今私たちの現状でございます。

地元に戻りますと、婦人会ばかりじゃなくて、自治会とか公民館とか消防団でも入ってくる人がいなくなっているというその現状を今どうするかが大変課題だなと思っております。

**【遠藤部会長】** ありがとうございます。

新しい人材がいない現状をお話いただきました。

碓井委員、お願いいたします。

**【碓井委員】** よろしくお願いいたします。

これは今、議題1番の重点戦略のほうでという意見を……。

**【遠藤部会長】** ちょっと広げて結構です。

**【碓井委員】** 皆様のご意見を聞きながら、あと各部会のご意見を見せていただく中で私の私見として述べさせていただきます。

富山県、皆さんご存じのとおり、今東京一極集中ということでもよく言われていますが、1990年以降、転出超過が続いている中、先ほど知事からも言われましたが人口減少時代ということでもあります。

今後やはりどの分野においても担い手不足ということが避けられない時代になってくるかなという中で、活力部会さんのほうでご意見が出ていましたが、A I技術ということがますます進んでくるかという中で、人がやる分野とA I技術に頼る部分というすみ分けが今後必要になってくるというふうに思っています。

ですから今後10年の中で発展を遂げてくるA Iと、本当に富山県民の若手を育てるということで、それぞれの分野におけるすみ分けというのが必要かなというふうに思っています。

一方で、ものづくりという部分は富山県には本当に一つの強みであるというふうに思っています。

ものづくりの部分においても、ロボット技術ではできない伝統工芸であったり、そういった部分をしっかり若手の育成という部分で県のほうでもより力を入れて人材育成のほうに注力をしていただければいいかなというふうに個人的に思っております。

また、安心・安全という視点でも1つだけ申し上げるとすると、先ほども車への依存度が高いということのお話もございましたが、やはりこの部分に関しても単に災害という大きな部分での防災だけではなくて、やはり富山県は本当に車に頼る部分がございますので、そういった交通事故の減少に結びつけるためにも、高齢者への運転技術の向上というかそういった部分もより条例等でしっかり整備をしていくことも必要かなというふうに思っています。

以上です。

**【遠藤部会長】** ありがとうございます。

続きまして尾谷委員、お願いします。

【尾谷委員】 ざっくり申し上げますけれども、活力ある富山県のためには、自立した人材育成が必要じゃないかと思えます。

富山県として14歳の挑戦がありますが、中学校としてそうなんですけれども、高校生として、1年生、2年生でもいいんですけれども、社会人となるためにはどうかとか、稼ぐためにはどうなのかとか、働くことはどういうことかということをお教えることが必要かなと。もちろん大学の中でもそういうステージごとに中高大でやっていただけたらいいのかなと。これが富山県の人手不足や産業界がたくさんある中で、本当は一番思うのは、18歳、高卒からすぐ、富山県のものづくり産業からいくと、全てが大学に向かうんじゃないくて、富山県下で毎年1万人が生まれますから、1万人の18歳を少しでも補うような仕組みが早くから富山県に住み着いて働くという仕組みをつくるということがまず大切じゃないかと思えますので、そういう進め方を丁寧にやっていただければなと思えます。

ざっくりでしたが、すみません。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

久和委員、お願いいたします。

【久和委員】 全体の現行計画なんですけども、非常に真面目で堅実だなと思っていて、今、人手不足とかそういう話があって、若い人にいかに地元に戻ってきてもらうかみたいなことで、地元で生活してもらうというのが非常に大事であって、そういう意味では、若い人にアピールする魅力といいますか、夢といいますか、何というか、おもしろさとか新しさとか、楽しい、わくわくする、そういう要素がないと、若い人には何となく敬遠されるのかなというふうに思います。

東京と比べてどうしても富山でというのはなかなか難しいので、ある意味、東京と2時間ほどで行くようになったわけですから、東京にも非常に近いので、東京とうまく分担するというか、仕事のアミューズメント的なものはある程度東京を利用することにして、仕事の面で、先ほどからAIとかIoTという話が出ていますけれども、新しい仕事、おもしろい仕事、付加価値が高い仕事、そういう仕事が富山でたくさんあるんだということにならないと、なかなか若い人を引きつけることにはならないのかなと。

それと、やはり女性の方がどうしても外へ出ていく傾向が最近強いので、女性の方が希望するような職場をいかにたくさんつくるかということと、もう1つは、やはり女性も最近、男向きの仕事、女向きの仕事というのはほとんどありませんので、女性の方もものづくりに関心を持っていただけるような、小学校、中学校の時代からプロセスという教育といいますか、インプットが非常に大事なかなと。特に富山県の場合は14歳の挑戦というユニークな取り組みをやっておられますので、その中でも職業観といいますか、女性の仕事とかそういうことではなくて、特にものづくり、理系の分野にもぜひ女性が進出できるような教育をやっていただきたいなというふうに思います。

それから人手不足のために、どういう形になるかわかりませんが、だんだん外国人の方が増えてくると思えますので、そういう外国人を受け入れるための素地といいますか、県民の意識を変えていかなきゃいけないのかなというふうに思います。

とりあえずそれだけにさせていただきます。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

それでは朝日委員、お願いします。

【朝日専門委員】 朝日です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回いただきました資料を拝見させていただきまして、特に大事な人づくりということで意見を述べさせていただきます。大変すばらしい100の政策、委員の皆さん方の英知を集結されて出来上がった政策だと思います。

今も説明されましたが、12ページにございますように、オープンでわかりやすい県民参加の計画づくりということで、ぜひとも周知徹底を図っていただきたいと思います。

この中で、もしあるとすれば、先ほど14歳の挑戦とかいろんな意味で言っておられましたが、できれば中学、それから高校生にこういった素晴らしい計画があるんだということを伝えていただきたいと思います。このような計画は他県にはないと思います。

若いときからこういったことに対する理解をしていくこと、そして富山県の素晴らしさを理解していくということをひとつぜひとも浸透していただきたいなと思って聞いておりました。

それから私は、医薬品関係のものづくりの経営者として申し上げるわけでございますけれども、医薬品産業というのは今、出荷額が全国1位になりつつある、おそらく近く1位になると思います。

そういった中で、今後、富山のほうに政府の機関、民間の医薬品会社、それから私どものような医薬品副資材メーカーの多くが富山のほうへ進出を計画されていると思います。

ただ、喫緊の課題は、やはり人手不足、ワーカーを含めた人手不足は否めません。これをどのように解決していくのかということが、今後富山県として非常に重要なところだと思います。

その中で一つの私の考えということでお許しいただきたいと思いますが、今、少子高齢化の中、高校再編で高校がどんどん少なくなってきています。以前、富山工業と大沢野工業が合併されました。できれば、ものづくり県、富山県としては、普通科も減らず、工業系も減らすのではなく、工業系は絶対数が少ないのですから、それは残してほしいと思っております。そして、できることならば、今日富山大学の学長さんも県立大学の学長さんもお見えですが、富山大学さんは来春にも設計関係の学科が新設され、県立大学さんは今年に医薬品工学科、そして31年には看護学科、もう1つは知能ロボット工学の学科ができますよね。ですから、そういうところでできるだけ進学してもらって、富山県枠で工業系の学生をつくり出すような動き、富山県枠をもう少し増やしていただいて、より富山県内に残っていただけるような、そんな施策をぜひとも考えていただけないだろうか、このように考えております。

これは私ども、ものづくり企業の経営者として非常にそれを感じておりますので、実は実例なのですが、私どものお客様である医薬品メーカーさんで、富山で相当人が採用できるだろうということで全面移転されたのですが、大変採用に苦労されました。囑託ですら厳しいというのが現状なんですよ。

そういうことですので、もちろん研究者や、管理者だけではなく、ワーカーの人たちも非常に不足しています。今後、高校生のうちから製造のほうに進め易いような仕組みづくりを考えていただきたいと思います。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

それでは池田委員、お願いいたします。

【池田専門委員】 初めまして。十文字学園女子大学の池田と申します。

人づくりの資料4-3の32ページに掲載されております「とやま科学オリンピック大会」のほうから参加させていただいております。

私のほうからは、3点ほど印象を述べさせていただきます。

まず、とやま科学オリンピックですが、現在まで順調に参加者のほうも増えてきております。39ページの資料にもございますが、理系女子がまだまだ少ないということで、こうしたオリンピックなどの取り組みをぜひ継続いただき、そこで女性もより活躍するようになれば、それをきっかけに、今後さらにいろいろなところに女性が進出する機会が増えるなど、そうした展開につながればと思っています。

2点目は、先ほど未来部会のほうからもご報告を頂戴しておりますように、家庭での教育力という点につきまして、「親教育」という点にももう少し力を入れると、地域、家庭、学校での連携がより進むのではないかと思います。

そのとき特に、最近、学校教育の場では、「特別な教科 道徳」や、それに関連する「論理力」の育成に力を入れておりますので、そうした論理力を核としたモラルシンキングの育成という視点ができるとういかもしれません。家庭・学校・地域で強化する富山発の「モラルシンキング教育」といった取り組みができるとういかもしれません。

最後の1点は、全体的なことになりますが10年の政策が10年後にどのような成果として見えてくるのかとういところで、例えば、「〇〇ゼロプロジェクト」というかたちで、「自殺ゼロプロジェクト」や「いじめゼロプロジェクト」などを立ち上げるのも有効かもしれません。先ほどの医療のところでも、技術的な発展だけではなく、病気を未然に防ぐ、「がん死亡率ゼロプロジェクト」など、難しいことかもしれませんが、委員の先生方も仰っていたように数字で成果を示すという点でも、具体的なプロジェクト名やスローガンなどを目標として掲げるといのは良いように思いました。

以上でございます。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

では、今村委員、お願いいたします。

【今村専門委員】 富山大学の今村です。よろしくお願ひします。

今これを拝見いたしましたして、3つほど意見を申し上げたいと思います。

1つは、政策の体系の個票として、「環日本海・アジア新時代に向けた陸・海・空の交通基盤の強化」と書いてありますが、この「環日本海・アジア新時代」ということは、多分北陸新幹線が開通してこちらが新しくなったとういことで新時代とういふうにして書いていらっしゃるのでしょうし、アジア、特に中国は大きく変わっているのも新しい時代かもしれません。新時代とうい言葉は何となくいいものに見えてしまう。そうすると、相手側が変わっていくときに、こちら側が変わったから相手もよろしくねとういのではなくて、向こうの変わりぐあいを頭の片隅に置きながら計画を練っていかないといけないのではないのかなと思います。

それから2番目といたしましては、先ほど石塚委員さんもおっしゃいましたし、自動運転システムができるかもしれませんが、喫緊の課題としては、海外からの個人観光客をとりこまなくてはならない。団体観光客の方は専用のバスがあるからいいのですけれども、

個人観光客にとって交通の便は問題になります。日本のタクシー料金は韓国や中国と比べると大変高いので、ぜひ公共交通の充実化を図っていただきたいと思います。

それから3点目、人口減少問題です。人口の転出が多いという話になっていますが、私は富山県のある市の地方創生の委員をしています。そこで言われているのが、うちの市が隣の市よりも子育て支援が充実していることをポスターで知らしめたらいいのではないかということでした。要するに取り合いなのです。日本全体でゼロサムゲームになってはしょうがないのであって、いかに日本全体の人口が増えていくのかということを考えていなければならないのではないのでしょうか。

どうも最近、血統とか我が子ということが重視されているけれども、「氏より育ち」という言葉がありますので、何かそちらのほうに発想が転換できないか。あるいはこれは貧困の問題にもかかわってくるのですが、例えばシングルマザーには、貧困の問題がふりかかってくることが多い。そこで問題があるというので切り捨てるのではなくて、何か人々が住みやすい、子どもを産んで育てやすい生活の仕組みができないものかなというように考えています。

以上です。

**【遠藤部会長】** ありがとうございます。

では、菅野委員、お願いいたします。

**【菅野専門委員】** 高岡ガスの菅野でございます。よろしくお願いいたします。

少子高齢化ということで、2つ申し上げたいと思います。

まず、資料の中に、富山県は老人クラブの加入率が全国1位というのがありまして、その数字を見ていると富山県はかなり断トツで1位、42%ぐらいですか、2位の県が27%とそれぐらい、かなり断トツなんです。これはすごく素晴らしいことだなというふうに思っています。ちょっと数字の見方が違うのかもしれませんが、かなり断トツで1位だなと。この要因がもしわかれば教えていただければというふうに思いました。やはり老人クラブとか地域クラブをしっかりとやっておられる方というのは、生きがいを感じながら非常に元気にやっておられる方が多いと思うので、それは富山県の元気につながるんじゃないかなと思っています。

それと、高齢化に関してもう1つ、防災なんですけれども、現在いろんなところで防災訓練というのをやっていると思います。企業単位でやっていたり、学校単位とかそういうのを比較的体が丈夫に動く人たちの間での防災教育というのは結構活発にやっていると思うんですけれども、要は高齢者の防災訓練というと、今は自治体単位での、つまり小学校単位での防災訓練は徐々に増えつつはあるんですけども、まだ実施していないところもあると思いますし、実施していても高齢者はなかなか外に出てこられない方もいらっしゃると思うので、高岡の場合を見ていると、校下によって呼びかけ、防災訓練をやるよ、出てきてくださいねと呼びかけをしているところはすごく参加率が高いんですが、やっぱり何もしないで回覧板だけで集まっているところというのは、非常に出席率が悪いので、それはみんなで声かけをしていかなければいけないというふうに感じています。

ああいう防災訓練を1回経験すると随分違いますので、煙の煙中訓練とかそういうのも1回高齢者の方もやられると、いざ何か起こったとき、随分違うんじゃないかなというふうに思います。



最後3つ目なんですが、重点戦略の中で環境・エネルギーという環境のところに関してなんですけれども、資料の中に食品ロスという言葉が出てきます。産業廃棄物が一般廃棄物にまじって、エコとか食品ロスというところから出てきているんですけども、最近いろんな、例えば立食のパーティーがありますよね。皆さんも出られると思うんですが、食品が大量に余ることが非常に多いと思います。最近は立食パーティーの中でお食事タイムというのをとっているところもあります。10分間だか15分間だか、しっかり食べましょうと、そういう雰囲気が出てくればすごくいいんじゃないかなというふうに思います。

本当は皆さん、食べようと思えば食べられるはずなんですけど、どうしてもお酒をついたり、お酌をしたりで時間がたってしまうので、そういう声かけがすごく重要でないかなと、それが食品ロスの廃棄の減少にもつながるんじゃないかなというふうに思っております。

以上です。

**【遠藤部会長】** ありがとうございます。

それでは、今、委員、専門委員のご意見を伺いました。この後、部会長などからご意見をいただこうと思いますけど、ここで石井知事に、これまでのところでのコメントをお願いします。

**【石井知事】** ありがとうございます。本当にそれぞれ貴重なご意見をありがとうございます。

最初のお話が、特に二次交通というか公共交通の面を大事にしないと、また観光の面でも結構増えていますので考えなきゃいけないという点はおっしゃっておりで、一方では、実際に交通事業者の方に実感を聞きますと、県が例えば補助金を出して支えてはいるんですけども、そのバスの中に1人、2人しか乗っていないとか、空気を運んでいるんじゃないとか、そういうようなこともあるものですから、デマンドタクシーみたいなものの活用も含めて、どういうふうにやったらいいのかというのを、これは交通事業者の方、また市町村の方とも交通の新しいあり方をしっかり考えるという面で、これからもこれは考えていきたいと思います。

それから、いろんなご意見が出ましたけれども、例えば北日本新聞さんの例の「愛のひと声運動」ですか、そういったものも含めて、例えば富山県にはケアネット21の活動もありまして、県内でも200以上できていると思うんですけども、自治会、もうちょっと広い小学校ぐらいの単位で、民生委員とか町内会長さんとか地域のお医者さんとかいろんな方がグループに入って、婦人会の方も参加されているところもあるんですけども、ご高齢のひとり暮らしのお年寄りのところに行き定期的にお声がけをするとか、あるいは体が不自由で買い物に行くのが大変だということで買い物を代行してあげるとか、冬、除雪が大変だということで除雪をみんなで手伝ってあげるとか、そういう取り組みをされているケースも相当ありまして、こういったことが今後も富山県の地域社会、コミュニティーのすばらしいところということで、地域包括ケアシステムというのが別途福祉医療の世界で出しているんですけども、そういったことも含めて高齢社会が進む中で、そうした努力もしっかりとやっていきたいなと思います。

また、レジ袋の例のように、婦人会の皆さんが、大変地域のいろんな課題に熱心に環境問題もやっけていただいておりますので、これは全国的にそうした婦人会のような活動の組織

率が下がる傾向にあったりして頭が痛いんですけども、我々としてもできるだけそうした民間の皆さんの自発的な取り組み、そうしたグループ活動というものをお支えをしていきたいなと思っております。

それから、碓井さんがおっしゃった、これからは人間が自らやる分野と、AIにやってもらう分野というもののすみ分けが必要というお話がありましたが、経済産業省のレポートでも、今のIoT革命、AIみたいなものがどんどん進みますと、今普通のサラリーマンがやっている仕事の相当の部分をAIがかわりにやって、もっと効率的になる。じゃ、今までそういう仕事に携わっていた人間は何をやったらいんだということになりますので、そう簡単な話じゃありませんけれども、10年計画という以上はそういった時代を見据えて、できるだけ労働力不足、人手不足の時代ですから、IoTとかそういうところに代替して回る分野、そして、これこそは人間がいなくちゃいかんという分野に重点的に人を配置していくとか、そういった口で言うほど簡単じゃありませんけれども、そういう問題意識は確かに持っておりますので、進めていかなきゃいかんと思います。

また、14歳の挑戦はおかげさまで、これは前の知事さんのころに始めて、私が引き継いだときもいいことをやっていたらっしゃるといので、その後も続けているんですけども、全国で兵庫県ほか2、3の県が同じことをやろうということでやっているんですが、なかなかうまくいかないんですね。それは特に大きな都市なんかですと、大変表現が悪いんですが、ブラック企業とかそういうものあたりして、なかなか企業側に安心して子どもを送り込むといっても、その選択が難しいとか、それから個々の皆さんにもいろんな何かがあってなかなか責任が持てないという問題がある。それが富山県ではおかげさまで、家庭、学校、地域、企業がうまく連携ができてから成り立っているんだと思いますけれども、今、高校生1、2年なんかも考えてはどうかという話もありましたが、これはまた教育委員会でも、もちろんこの計画の中でも議論していただければと思います。

また、お話しのように、非常に基礎的なものは安全・安心とか学力とか医療水準とか医療の人材教育とかそういう基礎的なものは、私が言うと身びいきになりますが、いろんな指標を取ってもほとんど1番とか2番とか、少なくとも10番以内に入るんですが、やっぱりあえて言えば大都市のようなアミューズメントとか、おしゃれな若い人がわくわくするようなところはちょっと物足りないかなと。

そこで、せめて原宿や銀座みたいにはできませんので、富山県のよさに満ちている、ロケ地を増やそうとして、かなり成功させているわけですが、一方ではそういう分野でお話しのように、せっかく新幹線もできて、東京や大都市に近くなりましたので、そちらは東京などにお任せをして、もう少し富山県の強みを生かしたような、また、夢や希望を持てるような何か工夫をやっていきたいなと思っております。

あと、理系の分野に、女性にもっと関心を持ってもらうというのはおっしゃるとおりで、また努力をして、また計画の中にもそういったことが大事なことだと思います。

また、工業系の人材確保で地域枠という話も出ましたが、これは学長さん方もお二人おられますので、またそのうちご相談にお伺いするかと思います。

それから、科学オリンピック、池田委員さんには大変お世話になっておりますけれども、おかげで非常に成果が出ていると思います。これもしっかり続けていきたいと思っておりますし、また保護者の教育の問題とか、いじめとか自殺の問題とか、なるべく明確に目標を持って

という話もありました。

この問題に限らず「とやま未来創生戦略」ではなるべくKPIの目標、成果目標を何を目標にして結果としてできたんだという、PDCAサイクル、そういうようなことをもちろんしっかりやってまいりたいと思います。

それから、「環日本海・アジア新時代」という言い方をこれまでもよくしておりましたが、必ずしもこの新時代、一般的には前向きの話が特に富山県は多いと思うんですが、お話しのように中国の問題とか韓国の問題とかいろいろなことがあります、そうしたことも含めて国際環境が変わりつつある。トランプさんが登場もしていっちゃう、そういう中でどうしていくかという、この新時代というのはいろんな要素が入った新時代だと思いますけれども、いずれにしても新しい計画の中にどういうふうにして打ち出すか、また皆さんのご意見を伺って進めてまいりたいと思います。

また、シングルマザーの問題なんかも、実は経済界からも去年くらいにご提言をいただいている、私は、そういうニーズがあるなら、ぜひ富山で受け入れてもいいんじゃないかということで経済界の皆さんに、その辺のマッチングのお手伝いをお願いしたりしているんですけども、総論はいいんですけど各論ではなかなか実際に東京やそういうところに行っちゃう方が、それなら富山に移って行きましょうというふうにはなかなかなくて、少し時間がかかると思いますが、そういう方々も含めて、富山県は幅広い、地域社会としては安定した社会ですから、うまく受け入れられるようなことも必要なのではないかと同時に、そういう問題じゃなくて、一般的な移住する場合に、やっぱり受け入れる地域と空き家対策もそうですが、入ってくる方のある種のマッチングがうまくいきませんと、お互いに不幸になるというところがありますので、こうした点に留意をしながら進めていきたいと思っています。

また、消防防災、体験することが大事だというのはおっしゃるとおりですし、また、お食事会もやっつけちゃう。たしか高岡商工会議所ではそういうことをやっておられますが、大変いいことだと思います。

同時に、経済界中心のパーティーでいつも思うのは、主催される方々、今日いらっしゃる方々なんかそういうケースが多いんですが、大変立派な方々がやっておられるから、どうしてもホテル側も気を遣うのかすごい立派な料理がたくさん出るんですが、しかし、例えば高齢者向けにはシニアメニューを勧めたらどうかということをお今提唱しつつあるんですが、そもそも置く料理を、もう少しコンパクトに、例えばおいしいものを少量を出すとか、そういう工夫も要るのかなど。そうすると、ホテルも儲からないという話もあるかもしれませんが、これはまたぜひ経済界の皆さん方ともご相談しながら進めていただきたい、以上でございます。

**【遠藤部会長】** ありがとうございます。

それでは、各部会からのご意見を伺いたいと思います。

今、各委員、専門委員からのご意見をいただきましたけど、それを含みながら、各部会長としてのご意見をいただきたいと思います。まず高木委員をお願いします。

**【高木活力部会長】** ありがとうございます。

今お話しの中で、知事さんからもお話がありましたけど、やはり富山のよさをどうやってPRしていくか。アンケートでも1番は子育てで、2番がさまざまな働く場所があり、

所得水準が高いというのが富山の魅力になっております。やはりこういうところを広く県内外に知らせていくことが必要であると、こんなふうに思っております。

そうした中で、これも知事さんがちょっとおっしゃっていましたが、14歳の挑戦だけじゃなくて17歳、21歳、ここまで広げていったほうがいいのではないかと。私どもも富山大学が産業観光学の中で、例えば県の中小企業の採用ガイドブックも配らせていただいたり、あるいは産業観光の中で、実際に能作さんとかYKKさんとか三協さんとかの工場見学もやっております。大学生も聞くと見るとは大違いなんで、食い付きがいい、こういう状況であります。要は周知徹底、PRをどうやっていくのかということに力点を置いていくということがこれから必要だろうと思います。

また、いろいろ話が出ました地域コミュニティの衰退、岩田さんおっしゃるとおりなんですけど、富山は随分まだいいんです。と言いますのは、先般、総務省へ行きましたら、プリペイドカードを頂戴しまして、これは何かといったら、要するに町内会や婦人会や公園の清掃等、何をやっても皆さんが出てこないの、出てきたら1回としてポイントが当たるんです。それは近所の商店街で500円とかに変えられるんですね。そこまでやらないとみんな出て来ないのかというのが既に東京で起きている現実でございますので、それから見たら少なくなったとはいえ、まだ富山のコミュニティは健全なので、今のうちにどうやってやっていくかと、こんなことだろうと思います。

それから、活力部会のほうでも良好事例を示していくことが必要かなと思っております。

つい最近、氷見出身の網元の友人から手紙をいただきまして、何と23歳の女性が漁師として入社してきたということでございます。これは一昨年、内閣総理大臣賞ももらった人なんですけど、残念ながら富山で網を張るところがなく、七尾市へ行って張ってしまったんですね。生粋の富山県人でございますので、どうすればそういうふうになったのかというのを、これはNHKでもやっていて、そのテレビを見て両親と一緒に入社してこられたそうです。誰でも船頭になったら1,000万です。重機を動かしていた人達などが入社して来ているようです。そのかわり朝3時、4時です。創意工夫で、誰でも船頭になったら1,000万、一方で機械化もされています。そしてマニュアルもつくっているんです。彼は若いときにスリランカとか台湾に網の技術指導に行っていて、今若い人に伝えている。ぜひ私どもは県と一緒にあってそういう人を呼んで、どうしたらここまで来たか。最初、ブリが通らないところしか網を落ろせなかったんですね。これを逆手に取って、神経締めだとかいろんなことを工夫して、ブリは一番とれない網なんですけど、とれないからこそ成長したと、こういう良好事例もご紹介していきたいと思っております。

最後にいい話を2点申し上げますと、まず1点は、先般、福井県の商工会議所の会頭さんと話をしておいたら、日本橋とやま館、「福井もああいうふうにせんにゃいかん」と力説しておられました。

それから、先週島津33代のご当主が昆布ルートの調査においてになって、北日本新聞社の板倉さんにもご本を頂戴して、差し上げました。そのときに、富山県の逆さ地図をお土産にあげましたところ、大変喜ばれて、実は鹿児島は北方四島から上海、台湾までのちょうど真ん中なんだと言って、非常に富山県の発想がいいということをおっしゃってましたのでご報告しておきます。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

では、金岡委員、お願いいたします。

【金岡未来部会長】 皆様のさまざまなご意見をお伺いしながら、前回の総合計画からちょうど5年ですので、何が環境変化として最も大きかったんだろうということを漠然と考えていました。

私が思いましたのは、やはり少子高齢化が現実化してきたということで、それが教育や介護の現場でさまざまなひずみを生んでいるということかと思います。

今たまたま思い起こしてみますと、増田レポートが衝撃的な「地方消滅」という題名でもって新書化されたのが2014年8月でございますので、まだ2年半ぐらい前のことなんですけど、もう随分昔に出たようなイメージがある。ということは、恐らく今回出される総合計画においては、この少子高齢化が現実のものとなって、そして石井知事もご尽力された地方創生の中で本格化しなくちゃいけないということ、これをご関係の今日ご会席いただいております関係の皆様、そしてまた県のこの委員になっていらっしゃるリーダーの方々というのは、本当に心の底からこの新しい総合計画に邁進していかなくちゃいけないという、そういう気持ちの問題が大きいんじゃないかなと思います。それが恐らくは5年前との最大の違いだろうと。

その中で、最近私が経験したことを2つご紹介したいと思います。

1つは2週間前に東京の経済同友会で高知県知事のお話を1時間半、それから10名弱で1時間昼食会に私も参加させていただきました。財務省ご出身で大変アクティブな知事なんですけれども、さまざまな統計データを見ますと、高知県といたしますと沖縄のやや上。本当に大変でして、人口が80万人台、そしてまた中山間地が多くて基礎自治体が30以上ある。富山県と比べますと大変厳しい状況でございます。

さまざまな取り組みをお聞きしましたが、実際大変だと。そしてこの富山県、北陸は、きのうも北陸フォーラムでお話が出ましたが、幸福度トップ5の中に福井、富山、石川が入っている。そして北陸新幹線ができたということで見ますと、まさに地方創生のフロントランナー、トップランナーとして、単に富山県のためだけではなくて、この実を上げていく必要があるんだろうなと思いました。

もう1点は、産官学金労で、特に金融関係でございます。2015年に現在の金融庁長官が森さんという方にかわれまして、金融庁の大変革を今行っているらしいです。

どういうことかと申しますと、それまでは長らく不良債権処理をやってきて、地方をはじめ金融機関の皆様というのは不良債権を出さないようにというのがこれまでの金融庁の仕事でございました。

これを全く180度転換された。どのように転換されたかといいますと、今地域の金融機関が健全であっても、そこにいる地域そのものが疲弊したら意味がないということで、180度不良債権の検査とかそういうものをやるのではなくて、地域経済の活性化にどれだけ地域の金融機関が寄与しているのか、これをKPIに設定されております。1年半、こういう活動を行われて、これがさらに加速化しておりますので、ぜひとも地域の産業の活性化の中では金融機関の皆様の占める割合というのは非常に大きいものがあるんですが、どうかこの辺を総合計画の中にも富山県内の地域の金融機関の皆様のご意見、そしてまたご協力というものをさらに仰いでいかれるとどうかなというふうに思います。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

次は尾畑委員。

**【尾畑安心副部長】** ただ今、審議会委員と専門委員の方から安心部会に関するご意見もいただきました。

地域というキーワードのもとで、ここの部会では医療をはじめ環境、防犯、災害、交通というあらゆるものがかかわっておりまして、かつては地域コミュニティーがしっかりしていた時代でしたけれども、この先10年を考えますと、私からはもう一回地域コミュニティーのネットワークのあり方の再構築をこの部会では少し具体的に考えていかないと思いません。

実を言いますと、前回の部会では医療のほうの話が随分たくさんありまして、環境とか防犯とか防災とかそういったようなものがちょっとまだ不十分な面もございます。

そういう意味で、「地域」というものをキーワードに、ネットワークのあり方の再構築について、もう少し検討を進めていこうかなと思っています。

また、地域づくりという観点では、「理系女子」とか「ものづくり県」への対策として工学系の県立大学や富山大学があるんですけども、実は企業と人材を支えていくものにもう1つ、板倉社長がおっしゃいましたように、グローバル化がどんどん進んでいこう。そういう意味では、今後の人材の育成としては、異文化共生に関するグローバル教育への注力が必要になってくるだろうと思えます。

県のほうでも環境や国際的な産業の分野で取り組んでおられるんですけど、アイデアはいいんですけど、実際にやる人は学生であったり企業の方です。そうすると経済的な面でも随分負担があって前に進まないというようなことがございます。

10年先にはもうちょっとその部分が発展できるような仕組みづくり、人づくりに関しても考えていただきたいと、これは私の個人の考えであり、部会の代表意見ではありませんけれども、そういうことを思っております。

以上でございます。

**【遠藤部長】** ありがとうございます。

それでは、稲垣委員からお願いします。

**【稲垣総合副部長】**

もう少し違う視点というか、もうちょっとマクロ的な視点から少しお話をさせていただきたいんですけども、実は富山県の幸福度が3位でしたっけ、例の日本総研の指標の中で65ぐらいの指標があって、何がそれを3番目に引き上げてきたのかなというふうに思っていたんです。ちょっと見てみたら、実は勤労世帯の1世帯当たりの可処分所得が全国でも断トツのトップなんですね。これというのは、多分多世代同居型の世帯が多いということ、それから実は持ち家率が高かったり、あるいは持ち家の規模が大きかったりというところなんですね。それが要因になっていると思うんですけども、これを考えてみますと、多世代同居型はあるにしても、現役の人たちがだんだん年老いるんですね。そしていなくなっちゃうと、実は可処分所得が下がっちゃうということも考えられる。それから、だんだん核家族化してきます。そういったところもあるので、本当に将来的にこの位置づけがずっと安泰なのかなと思うと、大きく変わってしまうという可能性もあるのかなというふうに思っています。

何だかんだと言っても、県民の幸せの中で、どうしても経済的な豊かさというのは、絶

対無視できないし、これが一番の基盤になってくると思うんです。

そういう意味で、可処分所得をどう上げていくのか、それとともに、実は大体の指標というのはほとんど平均値で語られることが多いんですけども、昨今の状況を見ていますと、ジニ係数云々の話もございしますが、やはり分布で考えていかなきゃいけないという時代に私は入ってきているんだと思う。

要は県民の多くの方々が豊かな中間層として豊かな生活が送られるようなインフラをつくっていく、そういうことが私は大切だと思うし、一番下の層に対してきちんとしたセーフティネットを持っているということもすごく大切だなというふうに思っています。

ただ、そのために上の層から下の層に所得を移転をするのかというと、それでは意味が無い。この県が生み出している総付加価値というものをどう高めていくかという話に私はなっていくと思うんですね。

じゃ、総付加価値って何なんだろう、それを高めるための今のボトルネックって何かというと、いろんな方がおっしゃっていますけれども、実は労働力不足というところに、一番大きなボトルネックがあるというふうに言わざるを得ないわけでありまして。

すなわち、労働生産性をやっぱり高めていくしかないねという話にはなると思うんですけども、今までは企業は、どちらかというと付加価値が下がることを前提にコストを下げるということで利益を確保するというをやってきたんですけども、もうそういう時代ではなくなってきた。やっぱりこれもデフレの限界みたいなものになっていますので、明らかに付加価値を高めて、そして生み出した価値をきちんと分配していくということが大切な時代に私はなっていると思います。

じゃ、付加価値を高めるためにどうすればいいのかということなんですけれども、あるいは労働生産性を高めるためにどうしていけばいいのかということなんですけれども、まずは、やはり富山県の産業構造をどのように変換していくのかというのがすごく大きな課題になっていくのではないかなというふうに思っております。

1つには、中小企業と一言で言うてしまうんですけども、小規模企業が多いということは、なかなか付加価値あるいは労働生産性を高めることができない。そういう意味で、中規模企業への統合といいますか、そういったことをどうやって後押ししていくのか。

それからもう1つは、産業の中身を見ていると、薬業のように完結した形でやっていたところもありますけれども、やはり下請であったり中間財であったりといったところが多く、そこをいかに下請からの脱却なり、あるいは最終消費財みたいな形で消費財としてブランド化を推進できるような構造に持っていくべきだとか、ここも高付加価値化への一つの道筋ではないか、こういったことも推進していかないといけないんじゃないかなというふうに思っています。

それと、実はちょっと違う視点で申し上げますと、この県のGDPがどのぐらいかよくわかりませんが、やっぱりさまざまな意味で公契約といいますか、例えば行政からのさまざまなお仕事というのは非常に多いと思うんですけども、今そういったことで入札制度なり何なりで、クオリティーや価格についてはしっかりしているんですけども、じゃ、受託企業の雇用条件ってどうなってるんだと、本当に価格だけあるいはクオリティーだけを追求していて、例えば非正規の人を前提にしたような契約になっていないかどうかということも私は考えていただきたい。これはぜひ検討して、こういったことも考えていただ

きたいなというふうに思っています。

それから、今は構造的な問題を申し上げましたけれども、やはり一人一人の職業能力とこのをどう高めていくのか、あるいはマッチングとこのをどうしていくのかという中で、この中にも書いてあるんですけども、やっぱり私はリクルートの時点からのあり方とこのを今考えるべきときに来ているんじゃないか。というのは、今学生さんは何百通もエントリーシートを書いているんです。これは失礼な話ですけども、こういう中で企業が本当にきちんとした人を選んでいるのかということになってくると、どうもそうではないし、その辺のマッチングが非常に難しい時代に入ってきています。

そういう意味では、この中にも書いてあるんですけども、本当に企業が主役になったようなインターンシップのあり方、これをぜひ推進をしていく、あるいは県としては後押しをしていただきたいなというふうに思っています。

そういったところで、あと2つほどつけ足しの話をしていただきますと、富山県の持っている一番大きな資源、これは人ですけども、それに付加するところがやはり水資源だと思っています。その水資源の循環をいかにきちんとした形で保全をしていくのか、森林の保全も含めて、これはぜひ大きな課題として考えていただきたい。

それともう1つは、地域のことについて言いますと、西部地区で一まとめにされるのは、私はいいことではないかなというふうに思っています。こういうことを言うと大変怒られるのかもしれないですけども、やっぱり西部地区の扇のかなめになっているのは私は高岡市だと思うんですね。ところが必ずしも高岡市の周辺地域や周辺市町村との感情的な問題は、スムーズにいかない面がある。逆にそこをどう県としてうまくその辺の融和といいますか、それを推進していただけるのかなということもぜひ考えていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

**【遠藤部会長】** ありがとうございます。

では、委員の方の最後になりましたが、永原委員にお願いいたします。

**【永原会長】** いつも言っているのが、人口の問題です。47都道府県で人口が社会増となったのは7都県しかない。東京、神奈川、埼玉、千葉ですね、あと愛知と福岡、沖縄。

明治維新の明治4年の廃藩置県以来、東京の一極集中は変わっていない。

富山県では女性が東京に行って帰ってこない。そういうメガトレンドになっているんですよ。流れに棹さして何とか東京に行った女性を連れ帰そうとしているが、今実は、各県ではそういうのはやっているんですよ。私は東京に行った男性が結婚して女性を連れて戻って来ればいいという話をしたこともあるが、そういうことはもう各県がやっているのではないかな。

将来の人口はどうかというと、さっき金岡さんが5年前と何が変わったのかといったら、高齢化が進んだとおっしゃったけれども、5年後はもっと高齢化するんですよ。多分がんの治療とかは進んで死ななくなる。そうすると、5年後の社会はどうか。

地域交通をどうするかという話もあるし、買い物にも影響が出る。限界集落に行くと、町内会でも65歳以上が半分以上になって、町内会活動が思うようにならなくなっている。

また、イギリスのEU離脱など急速に国際情勢が変わる可能性がある。ですから、例えば県が「グローバル競争を勝ち抜く環日本海・アジア戦略」とか書いて打ち出すのはいい



いんだけど、1年後に状況が変わることがあるので、また計画を変えるという覚悟を持っていたほうがいいと思う。

そういう意味で、少子化の話と高齢化の話については、大概いい話ではないが、県としてシミュレーションをやってほしい。

【遠藤部会長】 ありがとうございます。

これで全委員のご意見をお聞きしました。

私は、きょうは皆さん方からいろいろな要望、全体の基本のものの考え方をいただけたと思います。県のほうでもぜひ今後とも参考にしてまとめていただきたいと存じます。

特に池田委員からの「ゼロプロジェクト」というご発言をいただいたのが非常に印象的な言葉で、これはいいなと思いました。

昨日富山大学で、ダイバーシティという視点で教育研究の推進事業を行っており、昨日、各部局長10名と働く女性教授10名が集まって、意見交換をやるという場がございました。そのプロジェクトチームのポリシーが、「3つの変える」で、「意識を変える」「組織を変える」「環境を変える」という3つのポリシーです。ディスカッションしているうちに、まず環境をもう少し変えましょうという話が出てきて、女性トイレを全部新しくしようという提案でした。

実は本学の新しい工学部の建物は、パウダールーム付きの女性トイレなんだそうです。変えられるものと変えられないものがある。できることとできないこともある。それをとにかくトライする、できないとは言わない、これが新しいことをつくるための気持ちだと思います。

本日の議論を終わりにさせていただきますが、知事、おまとめをお願いいたします。

## 5 閉会の挨拶

【石井知事】 今日ちょっとまとめるのはあれですけども、後半に出たご意見で少しだけコメントをしますと、14歳だけではなくて、17歳などでも挑戦をしてはどうかというような高木部会長さんのお話、おっしゃるとおりだと思います。

ただ、そういう意味で、稲垣さんのお話にありましたように、相当企業のニーズを出した形のインターンシップをやっていまして、実は実業関係の高校生はインターンシップへの参加率はほぼ100%なんですね。あとは、いわゆるどちらかというと進学校みたいな普通科のところはそれでもインターンシップの参加率が、昔はほとんどゼロだったんですが、今はたしか6割にはなっているとは思いますが。ならずと7割近くになっているんですけども、そういう今教育現場でやっているインターンシップのやり方と、中学2年生対象の14歳の挑戦で実際かなりやっているとも言えるので、ということともう1つは、正直、高校の2年生、3年生ぐらいの人はもちろん高校生が何を目指しているかによるけど、相当忙しいことは事実なんですね。ですから、それはまたよく教育現場の意見を聞いてまいりたいと思います。

それから、金融庁が随分変わってきたというような話もありました。これは確かに産学官金ということで金融機関の役割も大きいと思いますので、これは総合計画でどう位置づ

けられるかわかりませんが、またご相談をしていきたいと思います。

それから異文化の交流、外国の方々をもっともっと積極的に受け入れる、これは人手不足等も絡むんですけれども、生産性を高めるというのも一つであります。実際に私、改めてわかったのは、中小企業の経営者の方が随分知恵を出して、あるいは旅館業界もかなり一生懸命やっていたらっしゃるところは、結構ASEAN地域から人を受け入れて、研修ということでやっておられます。技能実習生制度については、今度は最大5年になりました。しかし、やっぱり3年から5年に行く間に、しっかり資格を取って、一定の資格の人をお返しするというような仕組みになってきていますので、それはつまり単なる安い労働力を活用していると言われたくないという国の考え方もあるし、それはそれでいいと思うんですが、そういったつなぎ目のところを県としても今回積極的に支援をしたいと考えています。現場では労働力が足りない、しかしそれだけのことでどんどん人を入れるということではなくて、せっかくならここで手に技術、日本のすぐれた技術を学んでもらって、いずれはASEANの諸国に戻って、その地域でまた企業活動をやったり、あるいは富山県企業の現地の支社長になってもらいたいというのでもいいと思うんですけれども、そういうふうにつながるように、お互いに単に一方的に労働力を使うということでない形になるように、ここは富山県の役割じゃないかと思っていますので、そういうこともやっていきたいなと思っております。

それから、稲垣さんが言われた生産性あるいは付加価値をいかに高めるか、労働生産性もおっしゃるとおりだと思います。

それから永原会長さんがおっしゃったのも大変すてきなお話でありました。

ただ、私は必ずしも、確かに中央集権で東京一極集中が続いているんですけれども、最近、例えば20歳から24歳で言うと、男性は社会増減でいくと、20歳から40歳が101人のマイナスだったんですが、その次の年は30人ほどプラスになって、昨年度では108人ぐらいになっています。男性は大分形が出てきたんですが、むしろ女性が実質4年前が確か六百数十人のマイナス、3年前はたしか517人ぐらい。2年前に500人を切ってくれるかなと思ったら、残念ながら530人にまた増えたんですね。ですから私は、さっき何人の方がおっしゃったように、もちろん男性もしっかり確保しないといけないけど、やっぱり女性の皆さんが魅力を感じる、この富山で夢を持って、希望を持って、働き、暮らしたいなと思われる富山県にするにはどうするかというのが非常に重要なテーマだと思っておりまして、理系女子の問題とかいろいろとお話がありましたが、しっかりいたしていきたいと。

言い落としましたが、今村さんの話に、所詮人の取り合いでゼロサムゲームをやっているという議論もありましたが、そういう面もありますけれども、結局我々が今、国に対しても物申しているのは、東京にどんどん若い人が集まる。そういう人たちが出生率でいくと1.24なんですよ、東京はね。我々は低い低いと言っても、今は1.51まで来ていますし、いずれ1.9ぐらいにしたいと思うんですが、若い人をどんどん集めて使って、そういう人たちが幸せにそこで暮らしていくというのを、それをどんどん地方に寄越せというのも議論はありますけれども、実はあくせく働いて、出生率が低い。このままでいくのはやっぱりおかしいので、やはり東京の過密みたいな問題も、保育所待機児童の問題なんかも含めて、解決すると同時に地方の活性化になるには、どんどん若い人を東京が全部集めてきたが、出生率は低いというこの間違っただモデルを是正して、地方創生していかなくゃいかん。

それが富山県の主張で、一応全国知事会としてもそういう主張をしているわけで、ぜひこの辺をご理解をいただきたい。

今の教育問題でも、今度内閣府が委員会をつくっていただいて、私も委員になるということになりますけれども、これも平成14年までこういうような大学は23区にはこれ以上つくらせないという法律があったのが、いつの間にか小泉改革の規制改革の議論でわけがわからないうちに廃止になったんです。その後、急激にまた東京集中が進んでいるんです。ですからこれは本当にそれでいいのかと。やっぱりまずは、さっき言ったような問題意識で地方のお金がつくから、こういったところにもっと留意して、若い人が地方で夢を持って、希望を持って働けるようにしよう。東京、名古屋に集中するのを抑制するような仕組みをつくったらいいかどうか、こういったような議論もしております。

私は、ぜひ一方できょうは2人の学長さんがおられますが、地方の大学の皆さんも随分努力されていますが、さらにご尽力、ご精進いただきたく、我々も精いっぱいやりますので。

同時に、今の構造は誤ったモデルになっていますから、これをいかに是正していくか、これが日本の新たな飛躍にどうしても必要だと。そのために富山県もそれなりに役割を果たさせていただきたい。こういう気持ちで今度の計画もつくりたいと思っていますので、ぜひご審議いただきたいと思っております。

## 6 閉会

【事務局】 ありがとうございます。

それではお時間になりましたので、終了とさせていただきたいと思っておりますが、意見について、さらにおっしゃりたいということをございましたら、お手元に用紙を配布しておりますので、後日、事務局のほうへ送っていただければというふうに思います。

次回の日程でありますけれども、改めてご連絡いたしますけれど、この総合部会は5月11日木曜日でございます。それを受けまして、5月18日木曜日に総合計画審議会、本体のほうでございますが、こちらを開催したいというふうに思っております。

それでは、以上の会議をこれにて終了させていただきます。

本日はまことにありがとうございました。